人権を考える市民の集い2026

人権啓発映画会

「港(みなと)に灯(ひ)がともる」

THE HARBOR LIGHTS　～震災を知らない わたしの物語～



©Minato Studio 2025

キャスト：富田望生　伊藤万理華　青木柚　山之内すず　中川わさ美　MC NAM
田村健太郎　土村芳　渡辺真起子　山中崇　麻生祐未　甲本雅裕

2026年11月18日(水)　アプラたかいし小ホール

受付開始：午後1時30分　開演 午後2時

同時開催：人権相談員等による「特設人権相談」(午後2時～4時)

■対象：市内在住・在勤・在学の方

■上映時間：119分

■日本語字幕あり

入場無料
定員100名
当日先着順
事前申込不要

主催：高石市人権協会　　問合先：高石市 人権・生活相談課　072-275-6279

大事なもんは時間がかかるわ—

不格好でも迷っても、少しずつ、少しずつ。わたしと家族とこの町の再生への通過点。

神戸で、在日コリアン家族の下に生まれた金子灯（富田望生）。
在日の自覚は薄く、震災の翌月に生まれたことで被災の記憶がない灯は、
父（甲本雅裕）や母（麻生祐未）からこぼれる家族の歴史や
震災当時の話が遠いものに感じられ、どこか孤独と苛立ちを募らせている。
一方、父は家族との衝突が絶えず、家にはいつも冷たい空気が流れていた。
親戚の集まりで起きた口論によって、
気持ちが昂り「全部しんどい」と吐き出す灯。
そして、姉・美悠（伊藤万理華）が持ち出した日本への帰化をめぐり、
家族はさらに傾いていく—。

ある日、感情のコントロールを失い声を上げて泣いてしまう灯。
薬をもらう病院通いだけでは一向に心は回復しなかった。
そんな時、高校時代からの親友（山之内すず）にある診療所を紹介される。
彼女の母親も震災以降、PTSDを抱え続けていた。
診療所で泣きながら「なんで生きなあかんのやろ」と吐露する灯に、
医師（渡辺真起子）が静かに声をかける。
「金子さんのつらさが何なのか、一緒に考えてみませんか」
—回復を目指していく中で希望を探し続ける日々。コロナ禍も経て、
いろんな人と出会い、支えられ、心を通わせ、家族とも向き合い、
灯は長い時間をかけて人生にかすかな光を見出していく—。

本作は高校卒業から12年間に及ぶ主人公の模索の日々を、表情豊かな神戸の街を舞台に繊細に紡いでいく。主人公・灯の苦しみや葛藤、成長を見事に演じ切ったのは今作が初の映画主演作となる富田望生。監督は、20年以上にわたり、NHKの演出家として「カムカムエヴリバディ」など数々のドラマを手掛けてきた安達もじり。神戸で暮らす人々への膨大かつ綿密な取材を基に、震災後をリアルに描くオリジナルストーリーを作り上げた。「声なき声」とその苦しみに耳を傾けようとする作品である。






©Minato Studio　2025年／上映時間119分

港に灯がともる

THE HARBOR LIGHTS

大きな災害によるトラウマは、いくつもの対立や矛盾をよりいっそう露わにし、新たなトラウマへとつながっていく。そして、国家間の戦争が、過去から現在までどれほど家族における問題に深く影響しているか。これらが主人公である女性の苦悩をとおしてみごとに描かれた作品である。何よりすばらしいのは、家族を超えた新たな共生と再生の兆しが主人公をとおして静かに浮かび上がってくることだ。

信田さよ子さん（公益社団法人 日本公認心理師協会 前会長）

推薦　一般社団法人 日本臨床心理士会　公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会　公益社団法人 日本公認心理師協会　公益社団法人 日本精神保健福祉士協会
後援　公益社団法人 日本社会福祉士会


